

令和4年度第1回認知症対策推進会議 議事録

開催日時：令和4年7月25日（月）18時00分～19時30分

開催方法：オンライン会議

【委員（五十音順・敬称略）】

（出席者）

阿部 哲也（社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター）

伊藤 あおい（特定非営利活動法人宮城県グループホーム協議会）

岩渕 徳光（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）

大嶽 友和（仙台弁護士会）

小牧 健一朗（一般社団法人仙台歯科医師会）

佐々木 薫（認知症介護指導者ネットワーク仙台）

佐々木 葉子（公益社団法人宮城県看護協会）

鈴木 佐和子（宮城県老人保健施設連絡協議会）

清治 邦章（一般社団法人仙台市医師会）

高橋 利行（特定非営利活動法人宮城県ケアマネジャー協会）

高橋 将喜（一般社団法人仙台市薬剤師会）

丹野 智文（おれんじドア）

福井 大輔（みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会）

南 研二（宮城県精神保健福祉士協会）

宮崎 朋子（仙台市地域包括支援センター連絡協議会）

最上 啓史（仙台市老人福祉施設協議会）

山崎 英樹（仙台市認知症疾患医療センター いずみの杜診療所）

若生 栄子（公益社団法人認知症の人と家族の会 宮城県支部）

（欠席者）

原 敬造（一般社団法人仙台市医師会）

【事務局】

仙台市健康福祉局

各区保健福祉センター障害高齢課

【オブザーバー（順不同・敬称略）】

仙台市認知症疾患医療センター

いずみの杜診療所 地域連携室ゼネラルマネージャー 川井 丈弘

東北福祉大学せんだんホスピタル 認知症疾患医療センター長 高野 毅久

【会議概要】

- 1 開会
- 2 挨拶（健康福祉局保険高齢部長）
- 3 出席者紹介

議事に入る前に、山崎議長より次の確認があり、委員より異議なく了承された。

○会議の公開・非公開について、次第5報告「仙台市認知症疾患医療センター事業について」は、仙台市情報公開条例第7条第1項第5項「率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じられるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの」に該当するため、非公開とし、その他を公開とすること。

○議事録署名人を鈴木佐和子委員とすること。

4 議事

- (1) 令和3年度仙台市認知症施策の実績【資料1】
- (2) 令和4年度仙台市認知症施策の主な取組み【資料2】

事務局より、【資料1】および【資料2】について説明がある。

(山崎議長)

事務局からの説明について、委員より質問・意見を頂きたい。

(丹野委員)

認知症の人の見守りネットワークについて。QRコード付きシールやGPSは、認知症の人本人の意思に関係無く、付けることができってしまう。家族が本人の意思に関係なく勝手に付けることがあると思う。委員の皆さんも、これらを自分の身に勝手に付けられたらどう感じるかを考えてほしい。おそらく嫌な気持ちになると思う。認知症の人本人が、不安だからこういうツールを持ちたいと自分で考えたのであれば持てばいいと思うが、ほとんどの場合は違うと思う。無理やり付けられるものだと思う。認知症の人本人を監視や管理するための道具になってしまうので、これはやらないでほしい。本人が本当に必要だと思うのであれば、自分で情報提供をして、自分の意思で持てばよいと思う。これを市が推進するとなると、家族が本人の意思と関係なくやってしまう。そうすると本人たちは落ち込み、それで鬱になったり暴れたりしてしまう。優しさからこのようなことをやろうとしているのはわかるが、その優しさが、本人たちにとっては迷惑なこと、最悪なこととなる場合もある。実際に本人たちの意見を聞いた際にも、そのような意見を述べていた。家族たちは、本人が行方不明になっ

たら大変だと思っているのは理解できるが、本人たちにとっては診断直後からどうい  
う話し合いをしてくれるのかというほうが大切で、中途になってからこのようなもの  
(QRコード付きシールやGPS)をつけましょうということではなく、診断直後か  
ら十分に話し合うことのほうが大切だ。なぜ外へ出かけるのか、について本人たちの  
意見を聞くと、ほとんどの方が「家で孤立を感じている」とか「家族にいつもイライ  
ラすることを言われる」ため外へ出ていくのだと言っている。本人が外へ出ていく理  
由として、結局、家族と本人の関係性が崩れているためという場合が多い。このため、  
まずは家庭内での関係性を改善することを優先しなければならないのに、結局これら  
のツールによりまた家に連れ戻される。そして、さらに監視体制が強くなる。これ  
では悪循環だ。認知症の人本人たちからは、本当にこういうことは嫌だという意見が出  
されている。申し訳ないが、家族の方たちの意見も聞きながらだとは思いますが、GPS  
等を自分の身に勝手に付けられたらどう感じるかを、よく考えてみてほしい。

(若生委員)

私も認知症の人の見守りネットワークに登録している。先日も仙台市見守りネット  
ワークから協力依頼メールがあり、その後無事発見されたとのことで安心している。  
とてもありがたい事業だと思っている。ありがたい事業であるが、以前、認知症の人  
本人が行方不明になった家族が、どこへ連絡すればよいのかわからずにうろたえてし  
まうということがあった。時には一刻を争うことがある。行方不明時の緊急連絡先を、  
より多くの市民の方々にもっと広くお知らせしてほしい。例えば市政だよりも認知症  
の人の見守りネットワークについて掲載し、より広くお知らせしてほしい。丹野委員  
がおっしゃったとおり、認知症の人本人の了解のもと、様々なツールを使って発見に  
つなげるようにするのがよいのではないかと。また、認知症の人本人と、初期段階のう  
ちからよくご家族で話し合い、本人の意向をしっかりと聞きながら、それに応じて様々  
な機器を利用して見守れる体制を推進していただきたい。先日の行方不明の事例では、  
夕方5時頃に姿が見えなくなり、見つかったのは深夜10時半頃だった。家族がどこ  
へ連絡すればよいのかをすぐに認識できるよう、認知症の人の見守りネットワーク事  
業のより幅広い周知を、ぜひ実施いただきたい。

(山崎議長)

こういった見守りネットワーク事業が監視になるのか、それとも、いわゆる合理的  
配慮になるのか、危ういところもあるとあらためて感じる。一方で、毎年行方不明で  
亡くなる方がいる事実もある。監視にしないための、例えば認知症に関してのアドバ  
ンス・ケア・プランニングのようなもの、あるいは第三者や当事者が入った中でのネ  
ットワークの動かし方、そのような仕組みや工夫を検討してもよいのではないかと考  
える。他に質問はあるか。無いようなので、続いて今年度の新任委員より挨拶をいた  
だきたい。まず、佐々木委員よりお願いしたい。

(佐々木委員)

令和4年3月末まで医療機関で働いていたため、認知症症状が出ている方が増えて

いると感じることがあった。当協会の事業は主に、看護職向けの教育・研修であるが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より開催方法を変えて実施している。WEB研修方式が増えているが、やはり集合研修によりグループワークをすることも重要なのではないかと感じる。認知症関連に関しては、宮城県と仙台市からの受託を受け、認知症対応力向上研修を8月と10月の2回行う予定である。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、本年度は会場を看護協会の建物のみとし、集合とZoomを活用したハイブリッド形式で行う予定である。

現在、県内6カ所に訪問看護ステーションを設置している。その事業の中で認知症の方への訪問頻度は増えており、昨年度実績では全体の13.4%が認知症例のある方であった。住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで過ごしていけるような支援が大切であり、今後もそのために取り組んでいきたいと考えている。

(山崎議長)

続いて最上議員より発言いただきたい。

(最上委員)

仙台市老協は令和4年度、庄司前会長に代わり高田新会長が就任し、新たな体制で地域福祉の充実に向けて事業を進めている。自身は現在、施設推進委員会に所属している。本委員会では、入所待機者の実態把握、会員施設間での入所受付担当者の意見交換会の開催、仙台市介護事業支援課の指導を受け適正な待機者管理を推進している。特別養護老人ホームの待機者については、各施設の待機者名簿をもとに、施設に空きが出た際に連絡をすると、すでにお亡くなりになっていたり、他の施設に入所していたり、または、しばらくは入所するつもりはないと断られることがある。紙面上の入所待機者数と、すぐにでも入所を希望している待機者数には乖離があるのではないかと感じる。しかしながらそれら（紙面上の数字）が施設の整備計画に一部反映され、新たな施設が増えてきているのかと感じる。当然、地域の高齢者やご家族にとって受け皿を増えていくことは安心して地域で暮らしていくために重要なことである一方、施設の部屋に空きが出ると経営上の問題が発生し、介護職員の不足が年々深刻化しており、施設間での利用者や職員の奪い合いが発生してしまう懸念がある。いまは特養以外でも看取りをする介護事業所が多くあり、施設の選択肢は増えているのではないかと考えている。それゆえにこれは介護業界全体で考えていくべき課題なのではないかと考えている。引続き、仙台市からのご指導もいただきながらしっかりと努力していきたい。委員自身は仙台ビーナス会という社会福祉法人で勤務している。どの事業所でも過去より、認知症対応には苦慮している。対応はもちろんだが、認知症を持つ方よりよい生活を実現するために日々検討を重ねている。何より研修には多くの時間をかけてきた。現在法人内で勤務している職員の中で、認知症介護実践者研修修了者は約50名、リーダー研修は20名ほどが修了している。毎年、研修には必ず職員が受講している。近年では施設入所者のほとんどに何らかの認知症の症状があり、また、地域においても認知症高齢者の事件や、独居者見守り緊急対応、コロ

ナ禍おける地域高齢者の認知症の進行、孤立などの課題など多くが生じている。我々は、出会った時から認知症を持っている方をその病気の側面から見てしまう悪い傾向があるのではないかと反省している。その人その人のこれまでの人生や、これからの生活を一番に考え、伴走できる介護現場をつくっていくために、本会議で多くのことを学び、現場に持ち込み、また現場での取り組みやジレンマなどを共有できればと考えている。

(山崎議長)

続いて仙台市認知症疾患医療センター事業についての報告となる。非公開となるので、傍聴の方はご退出願いたい。また進行を佐々木副議長にお願いしたい。

5 報告

仙台市認知症疾患医療センター事業について  
【会議冒頭で確認された通り、非公開とする】

6 その他

(山崎議長)

その他、委員より発言などはあるか。

7 閉会

(山崎議長)

ないようであれば、以上で議事を終了する。

【議事録署名人】

(議長)

---

(委員)

---